

2013年の大雨

夏に大気不安定による記録的な大雨，秋には台風第18号及び台風第26号による記録的な大雨

1. 概要

平成25年の梅雨入りは，沖縄地方と関東甲信地方，北陸地方，東北南部で遅かったほかは平年並か早く，九州北部地方から東海地方にかけてはかなり早かった。梅雨明けは，東北地方と北陸地方でかなり遅かったほかは，奄美地方の平年並を除いて早く，沖縄地方と中国地方から関東甲信地方にかけてはかなり早かった。

夏には梅雨前線や太平洋高気圧の縁を回る湿った気流の影響でたびたび大雨となった。特に，7月下旬に山口県と島根県，8月上旬に岩手県と秋田県，8月下旬に島根県で発生した記録的な大雨により，河川の増水や住宅の浸水，土砂災害が発生した。

9月中旬には台風第18号，10月中旬には台風第26号による記録的な大雨により河川の氾濫や土砂災害が発生し，甚大な被害が生じた。

2. 主な大雨

ここでは，人的被害や社会活動に影響をもたらした大雨について，気象と災害の状況をまとめた。降水量を記載する際の観測地点名は，都道府県名，市町村名及び地点名とした。被害状況については，主に気象庁が取りまとめた資料によるが，一部，内閣府等発表の資料も使用した。また，負傷者等の数には風等を原因とするものも含まれる。

(1) 2月1日～2月2日：九州，近畿，関東（大雨） ＜前線＞

2月1日から2日にかけて，前線が西日本から東日本にかけての太平洋側を通過した。この影響で九州から関東にかけての太平洋側では雨が降り，九州北部地方の一部では大雨となった。

(2) 4月6日～4月8日：全国（大雨，暴風，高波） ＜低気圧＞

4月6日から7日にかけて，発達しながら日本海と本州南岸を北東に進んだ2つの低気圧が，8日には北

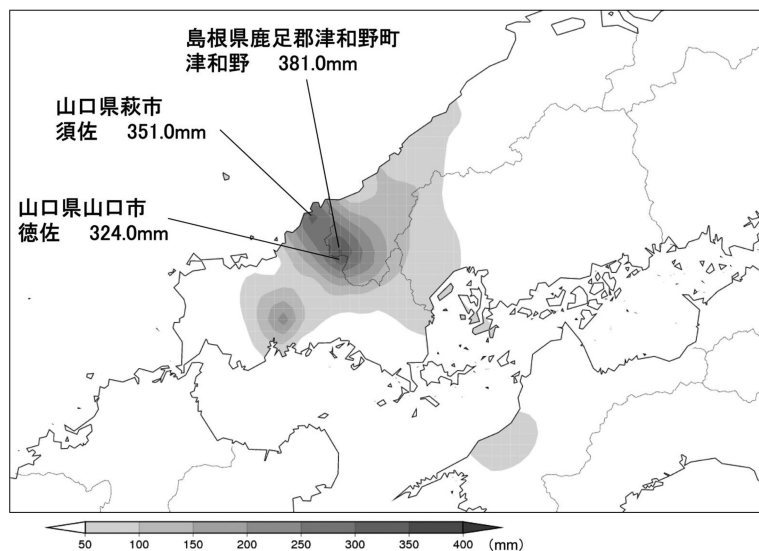
海道付近で1つにまとまり，千島近海に進んだ。これらの低気圧によって6日から8日にかけて，九州から北海道にかけての広い範囲で非常に強い風が吹き，海上では大しけとなった。また，九州から北海道にかけての太平洋側を中心に猛烈な雨となり，大雨となったところがあった。

この影響により，土砂災害や浸水被害が発生し，三重県で死者1名となったほか，全国で負傷者33名や住家の浸水，一部破損の被害，道路の被災による交通障害等が生じた。（被害の状況は，平成25年4月10日19時00分現在の内閣府の情報による）

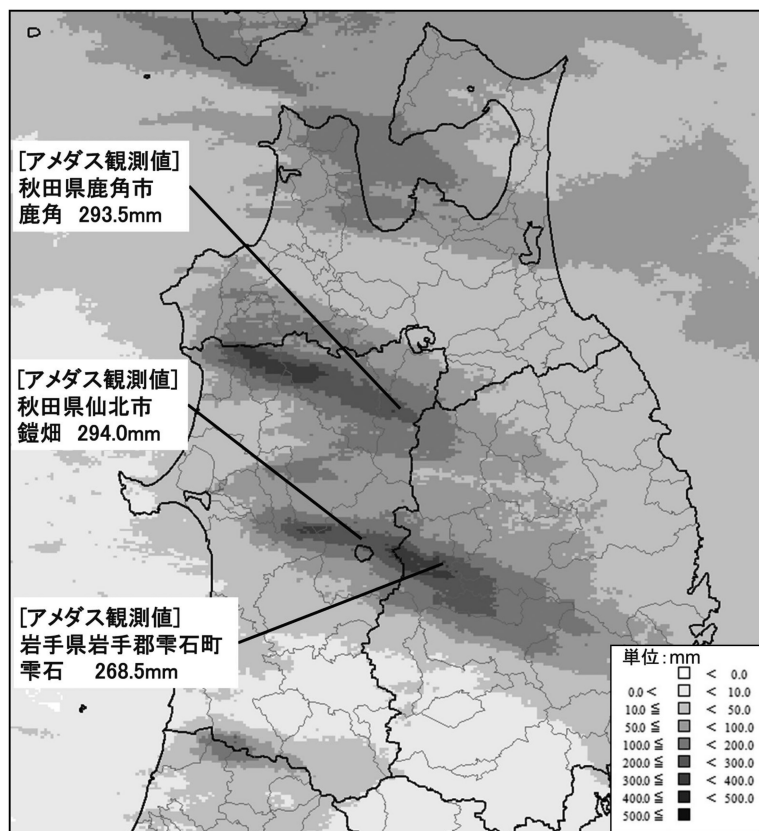
(3) 6月8日～8月10日：全国（大雨，暴風，高波） ＜台風第3号，台風第4号，台風第7号，梅雨前線，暖湿気＞

6月8日から8月10日にかけて，梅雨前線が九州から本州付近に停滞したことや，高気圧の縁を回る暖かく非常に湿った空気の流入，台風第3号，台風第4号及び第7号が日本に接近したこと等により，各地で大雨や暴風となった。特に，7月28日は午前中を中心に島根県と山口県で記録的な大雨となり，28日の日降水量は多いところで350 mmを超え，7月の月降水量平年値以上となった。また，8月9日から10日にかけては，秋田県や岩手県を中心に記録的な大雨となり，解析雨量によると，秋田県大館市で1時間に120 mm以上の猛烈な雨を解析し，秋田県大館市と北秋田市では3時間に約300 mmの雨を解析した。第1図に7月28日の総雨量分布図を，第2図に8月9日から10日にかけての総雨量分布図を示す。

この大雨や暴風により，岩手県，秋田県，山形県，新潟県，兵庫県，島根県，広島県，山口県であわせて死者14名，行方不明者3名となったほか，各地で河川の氾濫や土砂災害による住家被害や農地の浸水が多数発生した。その他，停電や断水が発生し，交通機関にも大きな影響が出た。（被害の状況は，平成25年10月7日18時00分現在の内閣府の情報による）



第1図 総雨量分布図（期間：7月28日）。



第2図 解析雨量による総雨量分布図（期間：8月9日～8月10日）。

(4) 8月12日：関東（大雨）

<大気不安定>

関東では日中の昇温により大気の状態が非常に不安定となり、所々で雷を伴い激しい雨が降った。この雷雨の影響により、関東では、住家の浸水被害が出たほか、停電や断水などの被害が生じた。（被害の状況は気象庁調べ）

(5) 8月15日：甲信（大雨）

<大気不安定>

本州付近は高気圧に覆われたが、関東甲信では大気の状態が不安定となり、20時29分までの1時間に長野県諏訪市諏訪（スワ）で74.5 mmの非常に激しい雨が降るなど、雷を伴い大雨となったところもあった。この影響で、長野県で住家の浸水被害が出たほか、停電、道路の通行止めや鉄道の運休等の交通障害等が生じた。（被害の状況は気象庁調べ）

(6) 8月16日～8月19日：北日本（大雨）<低気圧>

8月16日から19日にかけて、中国東北区からオホーツク海に進んだ低気圧からのびる前線が北日本に接近し、その後停滞した。この影響で北日本を中心に雨が降り、北海道の一部では大雨となった。

この大雨により、土砂崩れや住家の浸水が発生したほか、停電や鉄道の運休等の交通障害が生じた。（被害の状況は気象庁調べ）

(7) 8月20日～8月22日：沖縄
(大雨，暴風，高波)＜台風第12号＞

8月18日09時に沖縄の南の海上で発生した台風第12号は、はじめほとんど停滞した後、20日には発達しながらゆっくりとした速さで北寄りに進み、進路を西寄りに変えながら、20日21時には宮古島の南東の海上に達した。台風はその後、21日には宮古島にかなり接近し、東シナ海を西寄りに進んだ。このため、沖縄では大雨や暴風となった。また、海上では大しけとなり、沿岸では高潮となった。

この台風の影響により、沖縄では道路の通行止めや船舶、航空機の欠航等の交通障害が生じた。(被害の状況は沖縄県による)

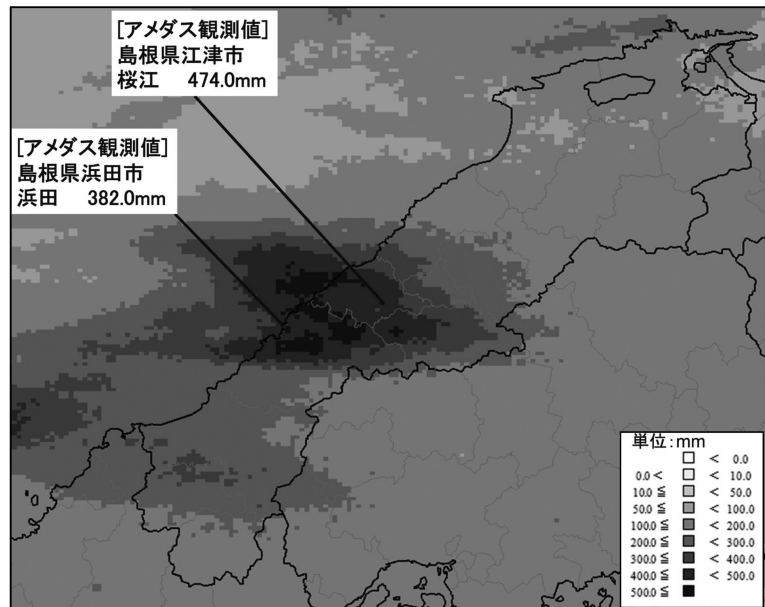
(8) 8月21日：東日本(大雨)＜前線＞

東北地方から三陸沖に進んだ前線の影響で、北陸や関東を中心に雨が降り、所々で非常に激しい雨が降り、雷を伴い、大雨となったところもあった。この影響で、東日本を中心に住家浸水や土砂災害、停電、道路の通行止めや鉄道の運休等の交通障害等が生じた。(被害の状況は気象庁調べ)

(9) 8月23日～8月26日：西日本から北日本(大雨，突風)＜前線＞

8月23日から26日にかけては、西日本から東日本にのびる前線に向かって、暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が非常に不安定となった。このため、東日本の日本海側と西日本を中心に大雨となった。特に8月24日には島根県において、平成25年7月28日に匹敵する記録的な大雨となった。第3図に8月23日から25日にかけての総雨量分布図を示す。また、23日には福岡県小浜市や兵庫県篠山市でそれぞれF1の竜巻が発生したほか、岐阜県美濃加茂市ではF1のダウンバーストが発生した。

これらの影響で、土砂災害や浸水害などが発生し、北海道と島根県であわせて死者2名となったほか、全



第3図 解析雨量による総雨量分布図(期間：8月23日～8月25日)。

国で浸水家屋2,000棟以上の住家被害が生じた。その他、停電や断水、交通機関の運休など大きな影響が出た。(被害の状況は、平成25年10月7日18時00分現在の内閣府の情報による)

(10) 8月27日～8月28日：北海道(大雨)

＜寒気，気圧の谷＞

8月27日と28日は、上空に寒気を伴う気圧の谷の影響で、北日本を中心に雨となり、特に27日は17時43分までの1時間に北海道苫小牧市苫小牧(トマコマイ)で90.0mmの猛烈な雨を観測するなど、北海道で大雨となったところがあった。このため、北海道では住家の浸水や土砂災害が発生したほか、停電や鉄道の運休などの交通障害が生じた。(被害の状況は気象庁調べ)

(11) 8月29日～9月5日：全国(大雨，暴風，突風，高波)＜前線，台風第15号，台風第17号＞

8月29日から9月5日にかけて、前線が本州付近にのび、停滞した。また、8月26日に発生した台風第15号は、8月29日から30日にかけて東シナ海を北に進み、31日に九州の西海上で温帯低気圧となった後、前線上を東に進んだ。さらに9月2日に発生した台風第17号は、東シナ海を北東に進み、4日03時頃に鹿児島

県指宿市付近に上陸した後、09時に足摺岬付近で温帯低気圧となった。

これら2つの台風と前線の影響により、西日本から北日本にかけての広い範囲で大雨となった。また、台風第15号及び台風第17号の影響で、南西諸島から四国にかけて暴風となり、海上は大しけとなった。また、前線や台風から変わった低気圧に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだため、31日には石川県加賀市でF0の突風が、2日には埼玉県さいたま市から千葉県及び茨城県にかけてF2の竜巻が、4日には栃木県鹿沼市と塩谷町においてそれぞれF1の竜巻が発生した。

これらの影響で、土砂災害や突風被害等が発生し、岐阜県と兵庫県であわせて死者2名となり、九州から北海道の広い範囲で損壊家屋1,500棟以上、浸水家屋3,000棟以上の住家被害が生じた。また、停電や断水、交通障害等が発生した。(被害の状況は、平成25年10月7日18時00分現在の内閣府の情報による)

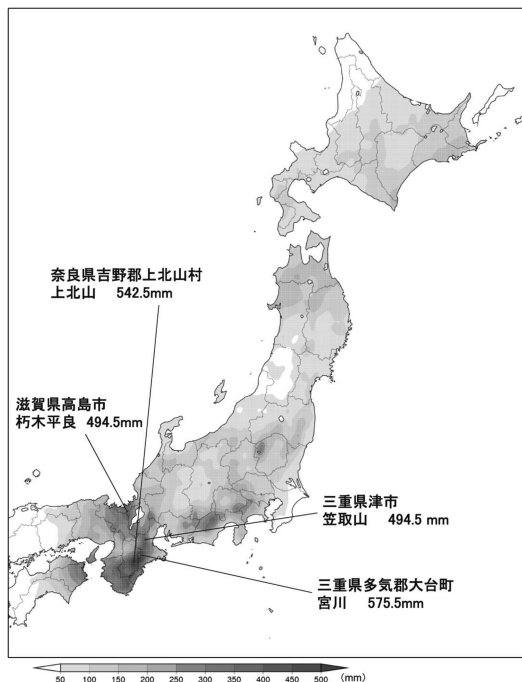
(12) 9月8日：東日本（大雨）＜前線＞

東シナ海から三陸沖にのびていた前線が本州南岸に南下し、この前線上の三陸沖に低気圧が発生して東へ進んだ。これらの影響で、西日本から北日本にかけて雨が降り、特に東海地方では非常に激しい雨が降った。このため、静岡県で土砂崩れや落雷等により、停電、道路の通行止めや鉄道の運休等の交通障害等が生じた。(被害の状況は気象庁調べ)

(13) 9月15日～9月17日：西日本から北日本（大雨、暴風、竜巻、高波）＜台風第18号＞

9月13日09時に小笠原諸島近海で発生した台風第18号は、発達しながら日本の南海上に北上し、潮岬の南海上を通して、16日08時前に暴風域を伴って愛知県豊橋市付近に上陸した。その後、台風は速度を速めながら東海地方、関東甲信及び東北地方を北東に進み、16日21時に北海道の南東の海上で温帯低気圧となった。

台風の接近・通過に伴い、日本海から北日本にのびる前線の影響や、台風周辺から流れ込む湿った空気の影響、台風に伴う雨雲の影響で、四国から北海道にかけての広い範囲で大雨となった。また、台風や台風から変わった温帯低気圧の影響で、九州から北海道にかけての各地で暴風となった。このほか、15日には和歌山県串本町ではF1、三重県志摩市ではF0の竜巻が、16日には、埼玉県や群馬県でそれぞれF1の竜巻が発生した。第4図に9月15日から16日にかけての総雨量



第4図 総雨量分布図（期間：9月15日～9月16日）。

分布図を示す。

9月15日から16日までの総雨量は、近畿や東海地方を中心に400 mmを超えたほか、多いところでは、9月の月降水量平年値の2倍を超えたところがあった。また、近畿から北海道にかけての広い範囲で最大風速20 m/sを超える暴風が吹き、海上では波の高さが9 mを超える猛烈なしけとなり、沿岸では高潮となった。

台風第18号により記録的な大雨となった滋賀県、京都府及び福井県に対し、運用開始後初めて大雨特別警報を発表して最大級の警戒を呼びかけるなど、各地の气象台は、大雨や暴風等に対し、警報・注意報や気象情報で警戒を呼びかけた。

この大雨と暴風、竜巻等により、土砂災害、浸水害、河川の氾濫等が発生し、岩手県、福島県、福井県、三重県、滋賀県、兵庫県であわせて死者6名、行方不明者1名となり、四国から北海道の広い範囲で損壊家屋1,500棟以上、浸水家屋10,000棟以上の住家被害が生じた。また、停電、電話の不通、鉄道の運休、航空機・フェリーの欠航等の交通障害が発生した。(被害の状況は、平成25年10月11日18時00分現在の内閣府の情報及び平成25年10月7日10時00分現在の国土

交通省の情報による)

(14) 9月23日～9月26日：関東（大雨，暴風，高波）
＜台風第20号＞

9月21日15時にマリアナ諸島近海で発生した台風第20号は発達しながら北西へ進み，24日には小笠原諸島に接近した．その後，北東へ進路を変え，26日に伊豆諸島に接近した後，日本の東の海上へ進んだ．この影響により，小笠原諸島では大雨や強風，関東の一部では暴風となったところがあった．また，海上では大しけとなった．

(15) 10月1日～10月2日：関東（大雨，暴風）
＜台風第22号＞

9月30日09時に小笠原諸島の東の海上で発生した台風第22号は，発達しながら北に進み，10月1日には伊豆諸島の東の海上を通して，北東へ進路を変え，日本の東の海上へ進んだ．この影響で，関東から東北地方にかけての太平洋側では雨が降り，一部では強風となった．

(16) 10月4日～10月9日：沖縄・奄美から東日本（大雨，暴風，高波）＜台風第23号，台風第24号＞

10月1日03時にフィリピンの東で発生した台風第23号は発達しながら北上し，3日15時には暴風域を伴い，4日21時には強い台風となってゆっくりと沖縄の南海上を北西に進んだ．その後，台風は強い勢力で暴風域を伴い，5日夜に先島諸島付近を通過し，7日09時に中国大陸に上陸した後，7日15時に熱帯低気圧に変わった．

また，10月4日15時にマリアナ諸島付近で発生した台風第24号は，発達しながら北西に進み，7日03時には非常に強い台風となって，7日午後に沖縄・奄美を通過した．台風は，その後進路を北東に変え，8日21時頃に長崎県対馬付近を通過したあと日本海に入り，9日09時に能登沖で温帯低気圧に変わり，北東に進んで北日本を通過した．

この2つの台風により，沖縄から北陸にかけて非常に強い風が吹き，海上は大しけとなった．特に沖縄から九州北部地方にかけての海上を中心に猛烈な風が吹き，猛烈なしけとなった．

これら2つの台風の影響で，土砂災害等が発生し，沖縄から北陸にかけて負傷者11名となり，鹿児島県を

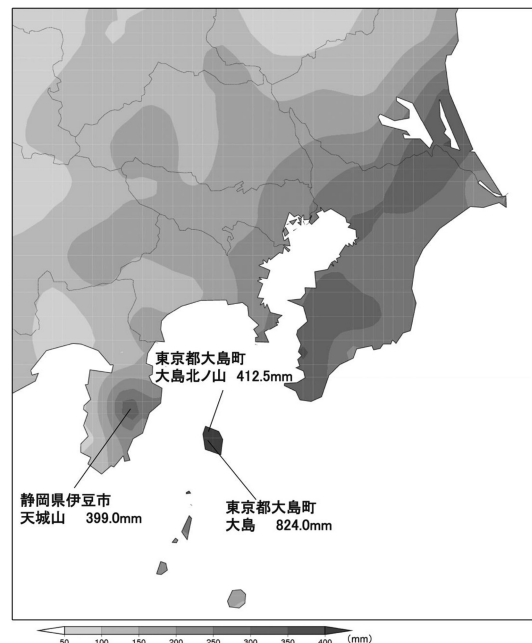
中心に900棟以上の住家被害が生じた．また，停電，電話の不通，鉄道の運休等の交通障害が発生した．（被害の状況は，平成25年10月10日19時00分現在の内閣府の情報による）

(17) 10月14日～10月16日：東日本から北日本（大雨，暴風，高波）＜台風第26号＞

10月10日21時にマリアナ諸島付近で発生した台風第26号は，発達しながら日本の南海上を北上し，大型で強い勢力のまま，16日明け方に暴風域を伴って関東地方沿岸に接近した．その後，台風は関東の東海上を北上し，16日15時に三陸沖で温帯低気圧に変わった．

この台風及び台風から変わった温帯低気圧により，15日と16日を中心に，西日本から北日本の広い範囲で大雨，暴風となった．第5図に10月14日から16日にかけての総雨量分布図を示す．

特に東京都大島町では，台風がもたらす湿った空気の影響で，16日未明から1時間100 mmを超える猛烈な雨が数時間降り続き，24時間の降水量が800 mmを超える大雨となった．10月14日から16日までの総降水量は，東京都大島町大島で824.0 mm，静岡県伊豆市天城山で399.0 mm となるなど，関東や東海地方では300 mmを超えたほか，統計期間が10年以上の観測地



第5図 総雨量分布図（期間：10月14日～10月16日）．

点のうち、最大1時間降水量で2地点、最大3時間降水量で9地点、最大24時間降水量で14地点が統計開始以来の観測史上1位を更新した。風については、宮城県女川町江ノ島で33.6 m/s、千葉県銚子市銚子で33.5 m/sの最大風速を観測するなど、各地で暴風を観測し、海上では猛烈なしけとなった。

この大雨と暴風により、千葉県、東京都、神奈川県、静岡県で死者39名、行方不明者4名となり、中国地方から北海道の広い範囲で住家損壊、土砂災害、浸水害、河川の氾濫等が発生した。特に、東京都大島町では大規模な土砂災害が発生し、死者35名、行方不明4名となった。また、停電、電話の不通、断水、鉄道の運休、航空機・フェリーの欠航等の交通障害が発生した。（被害の状況は、平成25年11月25日17時00分現在の内閣府の情報による）

(18) 10月23日～10月26日：沖縄・奄美から東日本（大雨、暴風、高波）＜台風第27号＞

10月16日15時にマリアナ諸島付近で発生した台風第27号は、発達しながら日本の南海上に北上し、24日から25日にかけて大東島付近を通過した後、進路を東北東へ変え、速度を速めながら26日にかけて本州の南岸

を進み、26日午前中に伊豆諸島を通過した。その後、台風は26日15時に日本の東で温帯低気圧となった。この台風と本州の南岸に停滞する前線により、南西諸島と西日本から東日本にかけての太平洋側を中心に広い範囲で大雨、暴風となり、海上は猛烈なしけとなった。

この大雨と暴風により、千葉県で1名が負傷したほか、西日本から東日本にかけて住家損壊や土砂災害等が発生した。また、停電、電話の不通、道路の被災による交通障害等が発生した。（被害の状況は、平成25年11月7日15時00分現在の内閣府の情報による）

(19) 11月17日～11月22日：北陸、東北地方（大雨）＜低気圧、冬型＞

11月17日から19日にかけて、沿海州に低気圧がほとんど停滞した。その後低気圧は消滅し20日から22日にかけては冬型の気圧配置となった。このため、本州日本海側を中心に断続的に雷を伴い雨や雪が降った。この影響で、秋田県では工事現場で発生した土砂崩れにより死者5名となったほか、本州日本海側で停電、道路の通行止めや鉄道の運休、航空機や船舶の欠航等の交通障害が発生した。（被害の状況は気象庁調べ）

気候情報

2013年の台風

台風の発生数は19年ぶりに30個を超え、10月の接近数は最多

1. 概要

台風の発生数は平年より多い31個（平年値25.6個）であった。

日本への台風の接近数は平年より多い14個（平年値11.4個）で、9～10月に台風の接近が多く、10月の接近数は1951年以降で最も多い6個（平年値1.5個）であった。また、秋（9～11月）の接近数は1966年と並び1951年以降で最も多い9個（平年値4.8個）であった。本土への接近数は平年並の6個（平年値5.5個）、上陸数は台風第17号、第18号の2個（平年値2.7個）

であった。

第1表に台風の発生数、上陸数、接近数を、第2表に発生した台風の一覧を示す。

2. 日本に影響を及ぼした主な台風

日本に影響した台風（本稿では台風の中心が日本から概ね500 km に入った場合とする）のうち、主な台風について以下に概要を示す。なお、時刻については、全て日本時で表記した。第3表に日本に影響した台風の一覧、第1図にその経路図を示す。

第1表 平成25年(2013年)の台風発生数, 日本への上陸数*1, 日本への接近数*2と平年値及び平成24年(2012年)との比較.

項目	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
平年値	発生数	0.3	0.1	0.3	0.6	1.1	1.7	3.6	5.9	4.8	3.6	2.3	1.2	25.6
	上陸数					0.0	0.2	0.5	0.9	0.8	0.2	0.0		2.7
	接近数				0.2	0.6	0.8	2.1	3.4	2.9	1.5	0.6	0.1	11.4
平成24年 (2012年)	発生数			1		1	4	4	5	3	5	1	1	25
	上陸数						1			1				2
	接近数					1	3	3	6	3	4			17
平成25年 (2013年)	発生数	1	1				4	3	6	7	7	2		31
	上陸数									2				2
	接近数						2	1	2	4	6			14

(注)・平年値は, 昭和56年(1981年)～平成22年(2010年)の30年平均.

・日本への接近は2か月にまたがる場合があり, 各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない.

上陸*1 台風の中心が北海道, 本州, 四国, 九州の海岸線に達した場合を「上陸」という. 小さい島や半島を横切って短時間で再び海に出る場合は「通過」とする.

接近*2 台風の中心が, 日本から概ね300 km 以内に入った場合を「接近」という.

(1) 台風第3号 (T1303 YAGI)

6月7日03時にフィリピンの東海上で発生した熱帯低気圧は, 北東に進んだ後, 北へ進路を変えた. その後, 北北東に進路を変え, 8日21時に同海上で台風第3号となった. 台風第3号は北北東に進み, 10日21時に本州の南で勢力が最大となった. 台風第3号は, 速度を落としながら同海上を北へ進み, その後東へ進路を変えた後, 12日15時に温帯低気圧へと変わった. その後, 東へゆっくりと進み, 16日21時に八丈島の南東で消滅した.

(2) 台風第4号 (T1304 LEEPI)

6月16日15時にフィリピンの東海上で発生した熱帯低気圧は北へ進み, 18日09時に同海上で台風第4号となり, 19日03時に勢力が最大となった. 台風第4号は21日09時に東シナ海で温帯低気圧に変わり, 東に進路を変えた. その後, 22日には徐々に北東に進路を変え, 24日09時にアリューシャン列島の南で消滅した.

(3) 台風第7号 (T1307 SOULIK)

7月7日09時にマリアナ諸島の北東の海上で発生した熱帯低気圧は, 西に進んだ後, 8日09時に同諸島近海で台風第7号となった. 台風第7号は, その後西北西に進路を変え, 急速に発達し, 10日09時に沖ノ鳥島の北の海上で勢力が最大となった. 台風第7号は, 進路と勢力を保ちながら, 13日未明に台湾北部へ上陸し, その後台湾海峡を横断して, 同日, 華南へ上陸し

た. 台風第7号はその後北へ進路を変え, 14日09時に熱帯低気圧に変わり, 15日03時に消滅した.

(4) 台風第12号 (T1312 TRAMI)

8月16日21時に台湾の東の海上で発生した熱帯低気圧は, 南東に進んだ後, 18日09時に沖縄の南の海上で台風第12号となった. 台風第12号は19日に北に進路を変え, その後, 20日に北西方向に再び進路を変え, 21日06時に宮古島付近で勢力が最大となった. 台風第12号は東シナ海を西に進んだ後, 22日朝に華南に上陸した. その後, 西北西に進んだ後, 23日03時に華中で熱帯低気圧となり, 南西に進路を変え, 24日21時に華南で消滅した.

(5) 台風第15号 (T1315 KONG-REY)

8月25日09時にフィリピンの東の海上で発生した熱帯低気圧は, 北北西に進んだ後, 26日15時にルソン島の東の海上で台風第15号となった. 台風第15号は北に進路を変え, 28日21時に台湾の東の海上で勢力が最大となった. 台風第15号は東シナ海に進んだ後, 29日には北東に進路を変え, 30日09時に熱帯低気圧に変わり, 同日21時に消滅した.

(6) 台風第17号 (T1317 TORAJI)

8月31日09時に台湾の北の海上で発生した熱帯低気圧は, 南東に進んだ後, 北東に進路を変え, 9月2日03時に先島諸島の北の海上で台風第17号となった. 台

第2表 平成25年(2013年)に発生した台風の一覧表。

台風番号	台風名	熱帯低気圧の発生			台風の発生			台風期間中の最低(大)値				熱帯低気圧または温帯低気圧となった日時と位置			消滅前の最後に確認された日時と位置、又は域外に出た最初の日時		
		月日時	北緯	東経	月日時	北緯	東経	海面気圧	風速	月日時	月日時	月日時	北緯	東経	月日時	北緯	東経
1	SONAMU	1 1 09	4.1	141.7	1 3 21	8.6	119.6	1 6 09	990	1 6 09	25	1 6 03	NW:280	SE:170	1 10 09	3.3	112.0
2	SHANSHAN	2 18 15	5.0	131.0	2 22 03	5.9	110.3	2 22 15	1002	2 22 15	18	2 22 15	NW:440	SE:220	2 23 09	4.2	109.3
3	YAGI	6 7 03	12.9	128.5	6 8 21	17.8	130.1	6 11 15	990	6 11 15	23	6 10 15	SE:390	NW:280	6 16 15	31.3	142.8
4	LEEI	6 16 15	12.0	128.2	6 18 09	16.6	126.6	6 20 15	994	6 20 15	20	6 19 15	E:600	W:330	6 24 03	46.0	177.9
5	BEBINCA	6 20 03	14.8	116.9	6 21 03	17.6	116.8	6 22 21	990	6 23 03	20	6 23 03	E:280	W:220	6 24 15	21.6	106.6
6	RUMBA	6 27 09	9.1	132.5	6 28 21	10.3	128.0	7 1 21	985	7 1 21	25	7 1 21	E:330	W:280	7 2 21	24.0	108.4
7	SOULIK	7 7 09	19.0	151.0	7 8 09	18.9	145.4	7 10 21	925	7 10 21	50	7 13 09	E:650	W:440	7 14 21	30.7	115.7
8	CIMARON	7 15 15	14.0	126.9	7 17 09	18.7	122.1	7 18 15	1000	7 18 15	20	7 18 21	E:190	W:150	7 19 03	23.5	117.9
9	JEBI	7 29 03	13.1	123.3	7 31 09	14.7	116.3	8 3 09	985	8 3 09	25	8 2 03	SE:460	NW:280	8 3 21	22.0	104.5
10	MANGKHUT	8 5 09	10.7	117.7	8 6 21	15.8	110.8	8 7 15	992	8 7 21	20	8 7 21		220	8 8 09	20.0	104.2
11	UTOR	8 8 21	12.1	136.6	8 10 03	13.5	131.7	8 11 21	925	8 11 21	55	8 14 03		370	8 15 21	24.2	111.2
12	TRAMI	8 16 21	22.5	123.4	8 18 09	20.3	127.0	8 22 03	965	8 22 03	30	8 22 21	E:600	W:330	8 23 03	27.7	114.7
13	PEWA	域外			8 18 21	12.4	179.7	8 19 21	990	8 19 21	30	8 25 03	NE:280	SW:110	8 27 03	35.2	165.8
14	UNALA	域外			8 19 15	17.5	180.0	8 19 15	1000	8 19 15	18	8 19 15	70		8 19 21	17.5	179.2
15	KONG-REY	8 25 09	11.3	129.0	8 26 15	16.0	125.3	8 29 03	980	8 29 03	30	8 28 18	SE:370	NW:280	8 30 09	28.7	123.5
16	YUTU	8 29 09	29.2	169.1	9 1 09	32.5	176.2	9 1 21	1002	9 1 21	18	9 1 21	SE:390	NW:220	9 2 03	33.7	176.9
17	TORAJI	8 31 09	25.6	121.5	9 2 03	26.3	124.8	9 4 03	985	9 4 03	25	9 4 06	220		9 4 09	32.9	132.8
18	MAN-YI	9 12 03	19.7	148.1	9 13 09	22.0	142.1	9 16 06	960	9 16 06	35	9 16 18	S:650	N:520	9 16 21	42.0	145.0
19	USAGI	9 16 09	17.3	132.0	9 17 03	17.0	132.1	9 20 21	910	9 20 21	55	9 21 03	560		9 23 15	24.3	111.2
20	PABUK	9 19 15	14.0	148.5	9 21 15	19.8	145.2	9 26 09	965	9 27 03	30	9 24 03	NE:560	SW:370	9 27 09	39.9	152.7
21	WUTIP	9 26 03	14.8	118.4	9 27 15	16.8	116.3	9 30 09	965	9 30 15	35	9 29 03	N:390	S:220	10 1 09	18.0	101.5
22	SEPAT	9 29 15	26.4	151.5	9 30 09	26.4	146.8	10 2 21	992	10 2 21	20	10 2 21	E:330	W:220	10 3 03	40.0	146.0
23	FITOW	9 29 15	10.3	135.0	10 1 03	13.8	132.2	10 6 06	960	10 6 06	40	10 6 06	N:500	S:330	10 7 15	26.9	117.9
24	DANAS	10 1 09	18.1	151.5	10 4 15	16.9	146.0	10 8 00	935	10 8 00	45	10 7 12	NE:440	SW:280	10 9 09	38.0	135.0
25	NARI	10 8 21	14.0	131.6	10 9 21	14.5	128.9	10 14 15	965	10 14 15	40	10 14 09	390		10 16 03	15.4	105.1
26	WIPHA	10 9 09	14.0	149.0	10 10 21	13.8	143.7	10 14 03	930	10 14 03	45	10 16 12	E:850	W:650	10 16 15	41.0	146.0
27	FRANCISCO	10 15 21	13.8	148.9	10 16 15	12.1	144.4	10 20 09	920	10 20 09	55	10 25 00	NE:440	SW:390	10 26 15	33.0	144.2
28	LEKIMA	10 19 09	9.3	162.4	10 21 03	10.9	161.0	10 24 15	905	10 24 15	60	10 25 03	E:440	W:330	10 26 21	39.0	155.0
29	KROSA	10 28 03	12.9	142.3	10 30 03	16.1	131.1	11 2 15	970	11 2 15	40	11 2 21	N:280	S:220	11 4 15	17.7	111.2
30	HAIYAN	11 3 15	5.8	157.2	11 4 09	6.1	152.2	11 8 03	895	11 8 03	65	11 9 03	NE:500	SW:330	11 11 15	22.4	107.7
31	PODUL	11 11 21	5.5	129.9	11 14 21	11.9	111.7	11 15 03	1002	11 15 03	18	11 15 03	NW:220	SE:170	11 15 09	11.5	108.4
31	PODUL	域外			11 15 15	11.1	107.1										

表中の日はすべて日本時(JST)。

「台風期間中の最低(大)値」の起時は、最低(大)となった最後の時刻である。

(但し、風速はノットで解析し、5 m/s 単位に換算しているため必ずしもこれに当てはまらない事がある。)

強風域とは、台風の周辺で平均風速がおおむね15 m/s以上の領域。

種類欄の「TD」は熱帯低気圧、「L」は温帯低気圧を表す。

域外とは、日付変更線(東経180°)より東側、東経100°より西側、又は北緯60°より北側の領域。

第3表 平成25年(2013年)に日本に影響した台風の概要表(熱帯低気圧, 温帯低気圧の期間は除く)。

台風 番号	日本への影響 (台風の中心が日本から概ね500 km 以内に入った場合)			日本への接近 (台風の中心が日本から概ね300 km 以内に入った場合)			上陸, 通過
	月 日		地 域	月 日		地 域	
	始	終		始	終		
3	6/10	6/12	沖縄, 四国, 近畿, 東海地方, 関東甲信, 伊豆諸島・小笠原諸島	6/12	6/12	伊豆諸島・小笠原諸島	上陸または通過せず。
4	6/19	6/21	沖縄・奄美, 九州南部, 九州北部	6/19	6/21	沖縄, 九州北部	上陸または通過せず。
7	7/10	7/13	沖縄	7/12	7/13	沖縄	上陸または通過せず。
12	8/20	8/22	沖縄・奄美	8/20	8/21	沖縄	上陸または通過せず。
15	8/27	8/30	沖縄	8/28	8/30	沖縄	上陸または通過せず。
17	9/2	9/4	沖縄・奄美, 西日本, 東海地方, 北陸	9/2	9/4	沖縄・奄美, 九州南部, 九州北部, 四国, 中国地方	9月4日03時頃, 鹿児島県指宿市付近に上陸した。
18	9/13	9/16	全国	9/15	9/16	四国, 中国地方, 近畿, 東海地方, 関東甲信, 伊豆諸島・小笠原諸島, 北陸, 北日本	9月16日08時前, 愛知県豊橋市付近に上陸した。
19	9/20	9/21	沖縄				上陸または通過せず。
20	9/22	9/26	東海地方, 関東甲信, 伊豆諸島・小笠原諸島	9/23	9/26	伊豆諸島・小笠原諸島	上陸または通過せず。
22	9/30	10/3	近畿, 東海地方, 関東甲信, 伊豆諸島・小笠原諸島, 北陸, 北日本	9/30	10/3	東海地方, 関東甲信, 伊豆諸島・小笠原諸島, 東北地方	上陸または通過せず。
23	10/4	10/7	沖縄・奄美	10/5	10/6	沖縄	上陸または通過せず。
24	10/6	10/9	沖縄・奄美, 西日本, 東海地方, 関東甲信, 北陸, 東北地方	10/7	10/9	沖縄・奄美, 西日本, 北陸	10月8日21時頃, 長崎県対馬付近を通過した。
26	10/14	10/16	沖縄・奄美, 九州南部, 四国, 中国地方, 近畿, 東海地方, 関東甲信, 伊豆諸島・小笠原諸島, 北陸, 北日本	10/15	10/16	沖縄, 近畿, 東海地方, 関東甲信, 伊豆諸島・小笠原諸島, 北日本	上陸または通過せず。
27	10/22	10/26	沖縄・奄美, 九州南部, 九州北部, 四国, 近畿, 東海地方, 関東甲信, 伊豆諸島・小笠原諸島	10/23	10/26	沖縄・奄美, 九州南部, 伊豆諸島・小笠原諸島	上陸または通過せず。
28	10/25	10/25	伊豆諸島・小笠原諸島	10/25	10/25	伊豆諸島・小笠原諸島	上陸または通過せず。

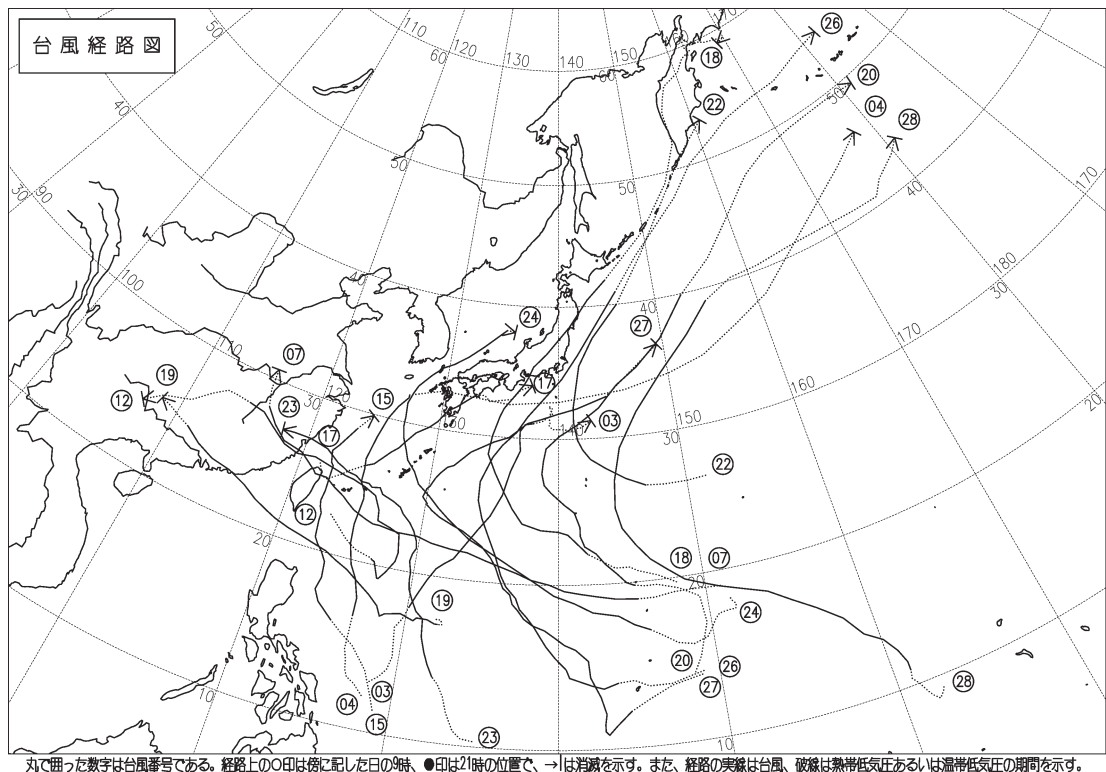
台風の中心が日本から概ね300 km 以内に入った場合を「日本に接近した台風」とした。

台風の中心が日本から概ね500 km 以内に入った場合を「日本に影響した台風」とした。

風第17号はその後北東へ進み, 3日09時に奄美群島の西の海上で勢力が最大となった。台風第17号は4日03時頃に鹿児島県指宿市付近に上陸した後, 09時に四国の南西部で温帯低気圧に変わった。温帯低気圧は, その後東北東へ進み, 5日21時に紀伊半島の東の海上で消滅した。

(7) 台風第18号 (T1318 MAN-YI)

9月12日03時にマリアナ諸島の東の海上で発生した熱帯低気圧は, 北西に進んだ後, 13日09時に父島の南の海上で台風第18号となった。台風第18号は進路を徐々に北北東に変え, 15日21時に四国の南の海上で勢力が最大となった。台風第18号は16日08時前に愛知県豊橋市付近に上陸した後, 北東に進み, 同日21時に北海道の南東の海上で温帯低気圧に変わった。温帯低気



第1図 2013年に日本に影響を及ぼした台風の経路図。

圧はその後千島列島沿いを北東へ進み、カムチャツカ半島を通過し、21日03時にベーリング海で消滅した。

(8) 台風第19号 (T1319 USAGI)

9月16日09時に沖ノ島島の南西の海上で発生した熱帯低気圧は、ゆっくりと東へ進み、同海域で進路を西に変えた後、17日03時に台風第19号となった。台風第19号はゆっくりと西へ進んだ後、フィリピン島の東の海上で急速に発達し、20日03時に勢力が最大となった。台風第19号は西北西に進み続け、21日にルソン海峡を通過して南シナ海に入った後、22日に華南に上陸した。その後も西北西に進み、23日15時に熱帯低気圧となり、24日15時に消滅した。

(9) 台風第20号 (T1320 PABUK)

9月19日15時にマリアナ諸島の東の海上で発生した熱帯低気圧は北へ進み、20日に同諸島の北東の海上で北西に進路を変え、21日15時に同諸島近海で台風第20号となった。台風第20号は北西へ進み続け、24日21時

に小笠原諸島の西の海上で勢力が最大となった後、25日には北東へ進路を変えた。台風第20号は加速しながら北東へ進み、27日09時に日本の東の海上で温帯低気圧に変わり、29日09時前にアリューシャン列島付近で東経180度を越えた。

(10) 台風第22号 (T1322 SEPAT)

9月29日15時に小笠原諸島の東の海上で発生した熱帯低気圧は、30日09時に同海域で台風第22号となり、進路を北へ変えた。台風第22号は、10月2日15時に日本の東の海上で勢力が最大となり、その後北東へ進路を変え、3日03時に同海域で温帯低気圧に変わった。その後、温帯低気圧は北東へ加速しながら、千島列島沿いを進み、4日09時にカムチャツカ半島の東の海上で消滅した。

(11) 台風第23号 (T1323 FITOW)

9月29日15時にパラオ諸島の北の海上で発生した熱帯低気圧は、北北西に進み、10月1日03時にフィリピンの東の海上で台風第23号となった。台風第23号は

徐々に発達を続け、4日に西北西に進路を変えた。台風第23号は西北西に進みながら、5日03時に沖縄の南の海上で勢力が最大となり、同日中に宮古島近海を通過して東シナ海に入った。その後、7日未明に華南へ上陸し、西に進路を変えて勢力を弱め、同日15時に熱帯低気圧に変わり、同日21時に消滅した。

(12) 台風第24号 (T1324 DANAS)

10月1日09時にマリアナ諸島の東の海上で発生した熱帯低気圧は、ゆっくりと南西に進み、3日夜から4日朝にかけてマリアナ諸島の南東の海上で北西に進路を変え、4日15時にマリアナ諸島近海で台風第24号となった。台風第24号は北西へ進み続け、7日09時に南大東島の南西の海上で勢力が最大となり、同日中に東シナ海に入った。その後、台風第24号は同海域で徐々に北東に進路を変え、8日21時頃に長崎県対馬を通過して、9日09時に日本海で温帯低気圧に変わり、同日21時に同海域で消滅した。

(13) 台風第26号 (T1326 WIPHA)

10月9日09時にマリアナ諸島の東の海上で発生した熱帯低気圧は西へ進み、10日21時にマリアナ諸島の西の海上で台風第26号となり、進路を北西へ変えた。台風第26号は、北西へ進みながら13日21時に沖ノ鳥島近海で勢力が最大となった後、徐々に進路を北東に変えた。台風第26号は、その後伊豆諸島付近を通過して、16

日15時に日本の東の海上で温帯低気圧に変わった。その後、温帯低気圧は東北東へ進路を保ちながら、18日21時前にベーリング海で東経180度を越えた。

(14) 台風第27号 (T1327 FRANCISCO)

10月15日21時にマリアナ諸島の東の海上で発生した熱帯低気圧は南西に進み、16日15時に同諸島の南の海上で台風第27号となった。台風第27号は、進路を北西へ変えた後急速に発達し、19日03時に同諸島の西の海上で勢力が最大となった後も北西に進んだ。台風第27号は、24日に沖縄本島の東の海上で徐々に勢力を弱めながら進路を北東に変えて、加速しながら進み、26日15時に伊豆諸島の東の海上で温帯低気圧に変わり、27日03時に消滅した。

(15) 台風第28号 (T1328 LEKIMA)

10月19日09時にマーシャル諸島の西の海上で発生した熱帯低気圧は北西に進み、21日03時に同海域で台風第28号となった。台風第28号は急速に発達し、23日09時にマリアナ諸島の東の海上で勢力が最大となり、25日朝に小笠原諸島の南東の海上で進路を北に変え、加速しながら北東へ進んだ。その後、26日21時に日本のはるか東の海上で温帯低気圧に変わって東に進み、29日03時前にアリューシャン列島の南の海上で東経180度を越えた。